

飼料用粳米及びカボス添加物の給与と羽性選抜による「おおいた冠地どり」の生産性向上技術

畜産研究部

1. 研究の背景

飼料価格の上昇などから飼料原料の安定的な確保や、生産性が高く機能性を付与できる専用飼料の開発が必要である。また、発育が良く斉一性のある鶏の生産には、鶏の改良も必要であり、これらのことから地域資源を利用した専用飼料開発と、羽性選抜による発育向上技術が求められている。

2. 普及したい技術のポイント

- ①市販ブロイラー用配合飼料に飼料用粳米を21日齢以降に10%代替給与し、カボス添加物を出荷前1週間に0.1%添加することで、飼料費を低く抑えて（約6.5%低減）発育が良く、肉質も改善（ドリップロスは解体10日後で重量比約22%減少）できる。
- ②速羽性の種鶏を選抜することで発育が改善（90日齢時で5%程度）される。

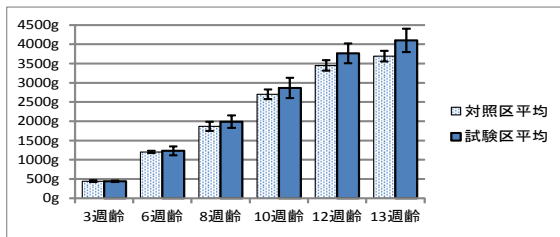


図1 雄の増体推移

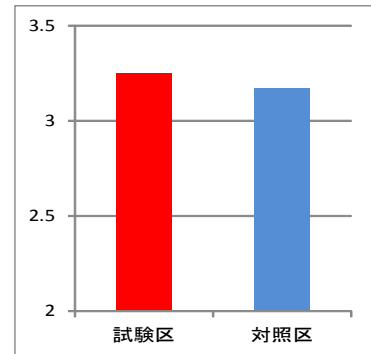


図2 通算での飼料要求率

表1 飼料費の比較

	単価 (円)	飼料摂取量(g)		1羽あたり期間飼料	
		対照区	試験区	対照区	試験区
配合飼料	66.1	9456.9	8322.3	625.1	550.1
飼料用粳米	30		924.7	0.0	27.7
KFD	5000		1.34	0.0	6.7
計				625.1	584.5

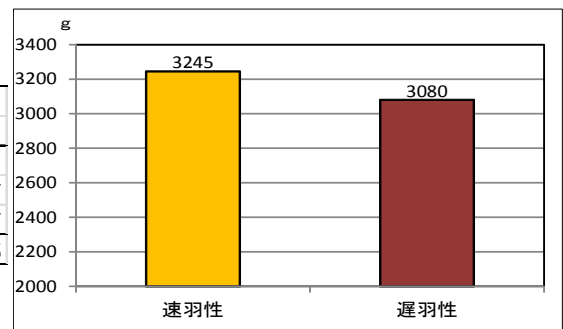


図3 羽性による90日齢平均体重の比較

3. 期待される効果

- ・増体の改善と飼料費の低減
- ・食肉としての高評価

4. 担当機関連絡先

畜産研究部 豚・鶏チーム

TEL：0974-22-0673

住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8